

すなが
須長10号墳

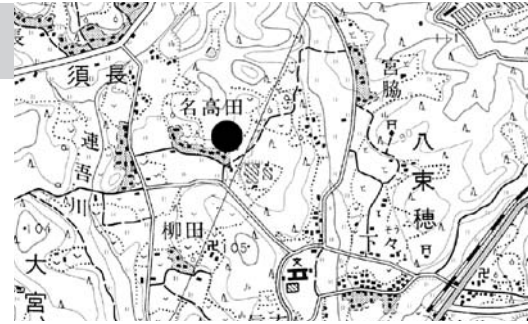
所在地 新城市須長
(北緯34度55分36秒 東経137度31分45秒)

調査理由 第二東海自動車道横浜名古屋線

調査期間 平成22年1月～平成22年2月

調査面積 1,200㎡

担当者 松田 訓・早野浩二・亀甲真史



調査地点 (1/2.5万「三河大野」)

調査の経過 発掘調査は、第二東海自動車道横浜名古屋線の建設に伴う事前調査として、中日本高速道路株式会社豊川工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として行った。

立地と環境 本遺跡は新城市のほぼ中央部に位置し、雁峰山の南麓、長篠・設楽原の合戦で有名な設楽原決戦場の北端やや東側に所在している。周囲の丘陵には、断上山古墳群、茶臼山古墳群が分布する。遺構検出面での標高は約110mである。

調査の概要 等高線の状況より、古墳は直径約10mの円墳ではないかと思われる。墳丘北部および東部に外護列石と思われる花崗岩礫を確認した。墳丘北側と西側に周溝を検出した。周溝の北側は、幅2m、深さは0.3m程を測り、西側では幅1m、深さ0.5～0.6mを測る。また、墳丘の西側平坦面には、竪穴建物跡3棟を確認し、そのうちの1棟から、6世紀末から7世紀初頭と思われる須恵器高杯が出土した。

古墳の埋葬施設は、全長約7m、幅約0.8m～1mの横穴式石室で、天井石は奥壁部を除き、原状を留めていなかった。横穴式石室に使用された石材は付近に産出する花崗岩である。羨門付近からは須恵器が出土した。

(亀甲真史)



調査前全景 (南から)



竪穴建物跡出土須恵器高杯



墳丘南側裾部



周溝北西側